

INTERVIEW

病的近視の研究が評価され 世界的に権威ある賞を受賞

眼科学分野
教授 おおの きょうこ 大野 京子

失明の可能性がある病的近視の原因から結果までを解明

2022年6月、米国黄斑会議のThe J・Donald Gass Medalを受賞いたしました。この賞は毎年、世界でただ一人、網膜疾患に対する顕著な業績を挙げた者に授与されるものです。このような世界的な賞の対象に選出していただいたことに感謝し、大きな励みにもなりました。

本学眼科には、国内外で非常に著名な、他を圧倒する領域があります。その一つが、近視の中でも失明に至る可能性

がある病的近視です。私はこれまで約30年間、網膜にどのような病変が生じると失明につながるのかを研究してきました。従来は漠然とアジア人の奇病のように思われていた病的近視を、3D MRIや超広角OCTといった検査機器を用い、原因から結果に至るまで解明したことが今回の受賞につながったのだと思っています。

国内外で活躍する人材を育成し
本学の存在感をさらに高めたい

近視はとても身近な病気です、2050



The J. Donald Gass Medalは、黄斑疾患を初めて報告した眼科医であるJohn Donald MacIntyre Gass氏の名前を冠した賞で、第45回年会で記念のメダルを授与されました。

年頃までには世界の人口の約半数が近視になると試算されています。ところが病的近視になると、眼球の後ろ側が突出していびつな形になる「ぶどう腫」といった変化が見られます。実は、そうした現象は幼少期から起こることが分かっており、現在、AMEDや製薬会社と共同で眼球変形を防ぐ治療に取り組んでいるところです。また基礎分野では、本人の皮膚の線維芽細胞を採取し、眼球の後ろに注入してコラーゲンを作り、強膜を分厚くすることで変形させないようにする研究も行っています。

今後は、国内外で活躍する人材を一人でも多く育成し、本学のプレゼンスをさらに高めていきたいと考えています。海外の研究者との豊富なネットワークを生かし、人柄や教育・研究面において信頼できる人々を厳選し、レジデントなど若いときから積極的に留学してもらっています。その一方で、私自身は疾患の本質を突き止め、患者さんを救うための診断法、治療法を確立するという目的に向けて常に前進していきたいと思っています。

この仕事に終わりはありません。これからも、グローバルな研究をさらに展開していきたいと思っています。